

タウンミーティング × 能美の里山ファン倶楽部

2018. 7. 26 (木) 19:30~21:15

国造コミュニティセンター 2階 和室

○参加者 市民 29名

○タウンミーティング議事録

【市長 市政方針・主要施策説明】

・日本の人口変動

2060年までに約4,000万人減少すると予想されている。

・能美市の人口変動

減少すると予想されているが、幅を小さくしたい。

・能美市の中山間地域、和光台、旭台の人口変動と高齢化率

中山間地域では合併時より約200人減少している、ただし外国人は増えている。高齢化率は8.7%上昇している。和光台は約800人増加している。高齢化率は1.5%しか上昇していない。旭台には65歳以上の人がいない。

・中山間地域の課題

人口減少、高齢化、生活・交通が不便、大雨・大雪などのリスクが高い、休耕田、有害鳥獣の出没

・中山間地域の魅力

豊かな自然の中での生活、人の温もり・絆が強い、観光資源、農林業、里山の恵み、四季折々の風景に恵まれている

・里山の店舗

アーティスト村、九谷焼工房、レストランなど

・移住者や担い手

国造柚子生産組合、農業女子、商工女性まちづくり研究会、地域おこし協力隊、ヨガインストラクターなど

・里山地域のイベント・まつり

各町でのまつりやBBQ等を通じた住民交流を開催

・里山地域活性化の施策

大学との連携、東大生フィールドスタディ、国造地区ゆたかなくらし協議会、地域おこし協力隊、住宅取得補助(中山間地域加算30万円)、ちよい住み体験施設、里山資源の6次産業化、中山間地域直接支払、鳥獣見回り隊、森林保全、森林協会の明確化、地元負担の軽減

・能美の里山ファン倶楽部の目的に向けて

持続可能で活力ある地域の創造を図る・・・「定住・移住」に向け、魅力を再確認し、磨き上げて発信していく。和光台・旭台(JAIST)の住民との互助共助。

【能美の里山ファン倶楽部会長 現状と課題の説明】

●倶楽部の活動のあゆみと成果

- ・里山地域の活性化を目指し行政と中山間地域の町会、里山を愛する 120 名の個人会員との協働で始めた。
- ・能美の里山を守る・深める・活かすというテーマで活力ある地域づくりを目指して活動している。地道な活動であるが評価され、石川県、国土交通省からも表彰されたり、ほっこりまつり等の開催など地域活性化にも寄与したりしている。また、里山地域の雰囲気や住民の人の良さもあり、飲食店の開店が相次いでいる。

①里山保全再生

除間伐した樹木の有効活用：炭販売、薪づくり、しいたけ・なめこ原木作り、休耕田の活用（山菜栽培）、ゆず畑の保全

②散策路の整備

里山に散策コースをつくり、散策ガイドを実施（年 6 回）

③ササユリ・シュンラン・モミジ・クヌギの植栽、カタクリ群生地整備

④自然環境教育

里山自然学校（年 5 回） 森の保育園（年 6 回）

⑤視察受入

後発団体の視察案内

⑥まちむら交流イベント

ほっこりまつり・坪野山菜まつり・里山感謝祭

⑦産業化の研究

乾燥しいたけ、万能タレ・出汁の販売

⑧旬菜市（今年度より再開）

家庭菜園の余剰野菜を持ち寄り里山交流館で販売

●課題

- ・活動がオーバーワーク気味
- ・活動や事業のマンネリ化
- ・組織体制がうまく機能していない
→今年度より理事を 25 人から 10 人以下として、若返りと機動力向上を実施
- ・会員の高齢化と減少
→若手リーダーの育成（自然塾の実施）
企業を訪問して活動内容を説明（地域社会貢献活動の一環であるとの賛同を得て、法人会員が昨年と比べて 13 社→50 社に増加）
- ・移住定住の促進
→行政、里山町会、不動産業者、建築業者と空き家情報、移住情報を共有して対処し

ていく

- ・Uターン促進活動

→子どもの郷土愛を育てる活動が必要

【意見交換 夢を語ろう】

1. 里山地域の魅力・活性化について

(市民)

- ・里山地域は恵まれた地域だ。能美市は住みよさランキングが全国上位で、金沢・小松からも近い、自然が豊か、人が良い。

(市民)

- ・商売と住居について考えたときに、バランスがいいと思った。実際に住んでみて、うまくいっているのが良かったと思っている。

(市民)

- ・LCC（格安航空券）やB&B（低価格宿泊施設）、レンタカーを利用すると、ハワイ旅行に家族3人で行っても10万円で行くことができる時代である。逆に、海外から能美市に来た旅行者がB&Bに泊まってレンタカーで観光することが当たり前になる時代が確実に来ると思っている。そういう時代に向けて受け入れ体制の整備や、取り組みを考えていかなければならない。ハワイにはマノアという滝があり、能美市の七つ滝と雰囲気と一緒に自然が豊かなところもハワイと似ている。観光資源を活かしていく、滞在して能美市を楽しんでもらう環境づくりが大事である。魅力を発信していくことが、将来的に財産になる。

(市民)

- ・昨年、国造柚子の農家や支援者の方たちに会って魅力を感じ能美市に来た。いろんな方と話をしながら地域おこし協力隊の活動をしていきたい。
質問→バランスがいいというのは具体的にどういうことか。

(市民)

- ・商売をしていかなければならないと考えときに、住んで良いところだけではだめ。この地域は住むことと商売のバランスがいいと思った。町中ではなく里山地域で店を出した方が、店のこだわりを伝えやすいと考えた。

(市民)

- ・数年前から寺畠の土地を借りて畑をしており、狩猟免許も取った。

ここ数年で環境が変わり、降雨被害やイノシシ被害があり、作物を作れない状況になってきている。今までのノウハウ・スキルでは対処することができなくなってきている。農業については次の段階を見据えて、熱さに強いなど過酷な環境でも耐えられる・作ることのできる農産物や技術の開発をしていかなければならない。災害も起きているが、行政が呼び掛けをしてから避難しているのでは遅く、自分の身は自分で守るという意識をもつ、集落で助けあうといった考えを持つことが大事だ。

(市長)

- ・ B & B (低価格宿泊施設) について、能美根上駅前にある。金沢観光に来る外国人が多くなってきているが、金沢のホテルは宿泊料金が高かったり、駅から離れていたりすることもあるため、JRのフリーパスを利用して能美根上駅まで来て泊まっていく外国人が多いと聞いている。ホテル人気度を示すサイトでも上位にランクインしている。インバウンドを取り込むため、地域の魅力とともにホテルの魅力を高める努力をしている。
- ・ 農作物への対策について、石川県農業試験場と協力して、ここでしかできない作物を育てていければと思っている
- ・ 鳥獣被害対策については予算を増やして対応している。被害があれば知らせてほしい
- ・ 災害について、7月5日の大雨で鍋谷町に避難勧告を、10の町会に自主避難勧告を出した。避難されない方もいたが、鍋谷町の消防団の人達に声掛け、見守りをしてもらい、地域の人との絆を改めて感じた。天候を操作することはできないが、気象情報や避難情報をできるだけ正確に早く住民に知らせ、安心・安全に避難してもらえるようにしていくことが大切だと考えている。

2. 能美里山ファン倶楽部のPRについて

(市民)

- ・ 国造振興会のまちづくり委員会に入っている。地域でまつりをする際に能美里山ファン倶楽部さんの協力も得ているが、能美市内で里山ファン倶楽部の活動の知名度はどれくらいあるのかと、ふと疑問に思う。知名度を上げるための情報発信を考えてはどうか。

(市民)

- ・ 確かにPR不足がある。どう伝えいくかを考えていく。里山ファン倶楽部の活動が目に見えるように、会員や商品の販売量を増やしていけるよう頑張っていきたい。企業訪問はしており、活動内容を説明すると賛同や励ましもいただいている。

(市民)

- ・ 和光台に住んでいる。これまでも、里山ファン倶楽部も協力している和気町の虫送り

に参加しており、とても貴重な体験だった。虚空蔵山の散策など自然体験ができるのはとても魅力的だ。案内があればどんどん参加するので活動や催しものがあれば、町の総会などで話をするなど、PRして欲しい。また困っている事があれば言ってほしい。協力して盛り上げていきたい。

(市民)

・能美市に人を招いてツアーをしたことがある。能美市の人「能美市は良い所だ」と言っても、身近な人には聞いてもらえないこともあるが、外部の第三者が言うのを聞いてもらえることがある。ツアー参加者は殆ど都会の人で、その方々が能美市はいいと思ってくるとPRしてくれる。能美市の農産物を使って製品を作っている企業もPRしてくれている。第三者を味方につけて巻き込みこむ方法もあるので地域全体で取り組む必要はあると思うが、活用してはどうか。

(市民)

・能美市には良い散策コースがある。自分たちは能美市の魅力を分かっているが、それを伝えきれていない現状がある。意見も参考にしてPRしていく。

(市民)

・県外の大学生が授業の一環で合宿に来てくれた。七つ滝、坪野のお店などに行き、仏大寺に住んでいる人にヒアリングをした。学生は能美の魅力を肌で感じて、後輩にも魅力を伝えると言ってくれた。自分たちが取り組んでいることを外部の人が見て、それを友達や家族に伝えてもらうことで、能美市に目を向けてもらえることがある。今していることを精一杯取り組んでいくことも大事である。自分たちが良いと思わないと人にも勧められないので前向きに取り組んでいく。

(市民)

・里山地域が将来どんな地域になったらいいかと考えていたが、難しく、考えきれなかった。能美市はいろんな面でバランスがいいと思っている。何かわからないがいいと思っている。里山ファン倶楽部の活動が里山地域の将来像につながっていくと思う。いろんな組織、私が所属している国造振興会のまちづくり委員会にも課題はあるが、将来に向けて考えると今のままでいいのではないかと考えている。変えてはいけないこともある。

(市長)

・皆さんのお話を聞いて、「人」がすべてだと思った。人が魅力で、いろんな人が集まっているという事例のひとつに「春蘭の里」がある。行く人は「春蘭の里」にいる人に会

って話をしたいと思って訪れている。

宮崎県日南市には飢肥という町があって、そこへ行くと市民がみんな挨拶をしてくれる。その市を見に人が行っている。

こども食堂では、不登校の子が友達とごはんをいっしょに食べることが、楽しいと感じて、またそこに行くようになっている。

佐賀県有田町では町歩きボランティアガイドに会いたくて人が来ている。

能美市の里山地域も人の魅力がある。人に会いたくてみんなここへ来ている。人が最大の魅力だと思う。

(市民)

- ・里山ファンクラブにはいろんなスキルを持っている人がいるが、PRが不得手だと思う。行政などがその部分をサポートしてくれるといいと思う。クラブも高齢化したけど、住む人・地場資源を活かした地域活性化というコンセプトは変わっていない。クラブができることは環境をつくり現場の活動を担うことであり、活かす集団も必要だと思う。

(市民)

- ・クラブでは川遊び雪遊びといった森の幼稚園活動をしているが、能美市内の保育園はひとつも参加していない。能美市の保育園でも一度でいいから参加して、体験して欲しい。
- ・能美市の学童保育では外遊びを禁止している。事故があったと聞いているが、原因は解消されたと思う。以前、討議する機会があったが、そこでは外遊びについての賛否が半々であった。怪我をした場合の対応を心配する声もあり、単純なことではないが、外遊びができる環境をつくっていくことを考えていきたい。
- ・保育園の園舎に木陰がないので、園舎の外の環境についても考えてほしい。

(市長)

- ・個人的には外遊びをさせてあげたい。しかし、安心安全に対する保護者の意見もあるため、バランスのとり方を考えていきたい。
- ・園舎には確かに木が少ない。一度確認する。

(市民)

- ・中山間地域の仏大寺町には家が少し増えている。小さい町なのでいろんな方の力を借りて新しい人を入れる必要があると考えている。里山ファンクラブには、ほっこりまつりや観音山散策道の整備など尽力してもらった。田は法人に一括して預けている。住民全員が預ける事に賛同して、小さい田を大きくして、法人が請けやすくしている。山林についても調査を積極的に受け入れる体制をとっている。助けを借りないといけないの

で、住民が一体となって協力してもらえるよう努力している。

- ・新しい人を受け入れるときに、何が魅力づくりのポイントになるのか知りたい。

(市長)

・移住定住を進めるために転入・転出する人へアンケートをとっている。ほとんどの人は暮らしやすい、自然がいいと言っている。不便だから出ていくという人は少なく、仕事の都合で出ていく人が多い。これから掘り下げて個人的に聞いていく必要があると考えている。ある人に話を聞くと、こんなに自然が素晴らしい所はないと言っていた。我々がそれに気付いていないだけかもしれない。移住を促進するパンフレットでも、子育てが充実だけでなく、自然の良さをPRするパンフも必要だと思う。作成する際にはご協力をお願いしたい。

(市民)

・1年前の5月に坪野町に移住し、空き家だった古民家を自分たちで改修し今年の4月22日に店をオープンした。全然知らない土地だったが、坪野町の方に応援してもらい、人っていいなと思った。坪野町は今年の大雪でも溝の水や美化センターがあるおかげで除雪はされていた。ここにはマイナスな要素はないと思っている。

また、仏大寺はきれいな町であり、そのまま魅力的なので、維持していくだけでいいと思う。

(市長)

・人の温かさをしみじみと感じる。これを大切にしていきたい。魅力を発信するお手伝いをしていきたい。今年の新入職員には柚子収穫体験をさせたいと思っている。職員を現場に行かせたいと考えているので、言い足りないこと、来てほしいということがあれば言ってほしい。